

要旨

看護学生のモチベーションの低下 ～その誘因と教師のあり方について考える～

社会システム研究科 地域コミュニティ専攻 真鍋かおる

《研究の目的》

現在、筆者は高校に属する5年一貫教育課程(看護科)、専攻科2年生の担任をしている。専攻科1年次に比べると、表情や態度、学習意欲等において学生の「看護師を目指そうというモチベーション」は低下してきていると痛感する。そして、この「モチベーションの低下」については、その状態になるまでには多くの要因が関係し、簡単に改善できるものではないと考える。「目的意識の低下」「学習意欲の低下」「自律性の欠如」など多くの課題をもつ学生は、まず職業科を選択した時点で親の勧めであることが多く、進学した時点からモチベーションが低い。学習・就業意欲の向上をはじめとして、自己決定による行為選択、判断と行動における道徳性、自己決定に伴う不安の克服、結果に対する責任等の看護における自律性や、深い人間理解と全人的・倫理的判断力を、教養科目や専門基礎科目と並行して教育・育成することは可能であるのか。この研究は、学生のモチベーション低下の誘因を探り、今後の教授改善に役立てることを目的とする。

《論文概要》

本研究では、第一に我が国の看護師養成教育の歴史を概観し、多様化する看護教育制度をふまえて看護師養成機関の今後の課題について考察する。さらに5年一貫教育の制度及びカリキュラムの現状から問題点を探り、5年一貫に共通する課題を探る。第二に学生のモチベーションの低下に繋がる大きな誘因は何であるのかをアンケートによって調査、考察する。その上で、A校の課題と取組について考察。第三に多様化する学生に対し、看護教育制度全体の中で「5年一貫教育課程が担いようとする看護教育とは」に焦点をおき、教育指導方法を具体的に考察し、今後の看護教育実践に役立てたい。

《内容》

序章 本研究の目的

第I章 「5年一貫看護教育制度」の課題について

1. 我が国の看護教育の歴史と教育課程の多様性についての振り返りを行う。そこで5年一貫教育課程の位置するところを認識する。
2. 看護知識教育を行う上での課題

各看護師養成課程別新カリキュラムについての比較を行い、5年一貫教育課程のカリキュラムの現状を把握。カリキュラム改正がどのような影響を及ぼしているのかを認識するとともに、机上学習を臨地実習につなげるための学生の学力や教員のマンパワー不足という指導体制の現状等をみつめながら考察していく。

3. 看護資質教育を行う上での課題

ここでは、早期に職業選択をしてくる学生の発達段階や社会的背景等について考察する。その中で、学生が抱える問題と、それを指導する教員の問題について見つめなおすとともに、早期に職業選択する5年一貫教育の学生の職業観を育てるにはどのようにしていけばよいのかを考える。

第Ⅱ章 学生の意識と学力の実態をめぐる考察

Ⅱ章ではアンケートから、モチベーション低下の誘因を考える。入学決定理由、入学後の満足度、授業の楽しさ、学習からの逃避、学校を辞めたい時、指導者への感情、職業意識、看護職への意欲の持続について学生の意識調査結果をふまえ、以下の1)～3)について考察。

- 1) 職業への意識・学校生活や学習への意識の変容、学習意欲減退の要因
- 2) 学生同士の関係への理解、そのための学生と教員の関係
- 3) 多様化する学生と保護者・家庭教育をめぐる課題、それに基づく生活指導の難しさ
また、学生の学力の課題として次の1)～2)について考察。

- 1) 看護師資格取得の国家試験に関わる学力と教育指導
- 2) 机上学習及び臨地実習に関する学力と教育指導

第Ⅲ章 看護学生をはぐくむ～学生の多様化に応じ、生活指導を含む教育指導を考える

Ⅲ章ではまず、5年一貫教育機関での教育成果の検証を行うとともに1章・Ⅱ章で実態化してきた現状を変えるための方策について考える。

謝辞

引用・参考文献一覧

《結果》

モチベーション低下の誘因は、「早期の職業選択」、「専門科目履修における学力不足」、「過密なカリキュラム」、「ハードな臨地実習単位取得」、「学業や実習から生じるストレス」、「友人、教員との人間関係構築の難しさ」、「看護学生としてのイメージに対する指導への不満」等であった。そして、モチベーションの低下は上級生になるにつれて顕著であった。

これらのことから、今後さらに学生の社会的背景や問題を細かく分析し、学生のモチベーション低下との関連性を調査するとともに、5年一貫教育課程ならではの「学生のやる気向上へとつながる教授方法」について模索する必要がある。